

望月衣塑子記者 大いに語る

講演と映画の集い

5月25日(土) 1時30分開演

会場 福生市民会館大ホール 入場無料

講演「私たちの暮らしを圧迫する米国製兵器の爆買い」

・・・アメリカ言いなりの安倍政権を質す・・・

粛々と台本どおりに進行する官房長官会見の場に、繰り返し発言を求める記者がいます。東京新聞の望月衣塑子記者です。権力に屈せず、隠される数々の「不都合な真実」を明らかにするため、敢然と立ち向かうこと、これはジャーナリストの本来の使命といえるでしょう。望月さんの質問を嫌い、官房長官会見での記者の質問を制限しようとする動きには、新聞労連、民放労連、そして多くの市民が「知る権利を守れ」と抗議の声を上げています。

その記者の目から、安倍政権のトランプ言いなり、米国製高額兵器の爆買いによって、国民生活が圧迫されている現実、どのようにとらえられているのでしょうか。興味は尽きません。

■3月14日、官邸前抗議集会での望月さんの発言
「一記者の質問の背後に声なき市民がいると政府は想像できていない」(東京新聞)



講師 望月衣塑子さん(東京新聞記者)



映画 沖縄から叫ぶ 戦争の時代 61分

私は、これまで「選挙」の映画を2本作り、市民が政治にかかわることの意味を考えてきました。今回は、「政治にかかわってください」という気持ちを最大限こめた映画になっています。

おそらく、日本全土が平和を脅かされる暗雲に包まれつつあります。その緊急性を、この映画でお感じください。 監督 湯本 雅典

主催 横田基地もいらない!

沖縄とともに声を上げよう

市民交流集会実行委員会

協賛 平和大好き

市民アクション@東京25

連絡先 080 8721 7177 岩田

■ご案内

今年の「横田基地もいらない市民交流集会」は10月5日(土) 福生市民会館大ホールで開催

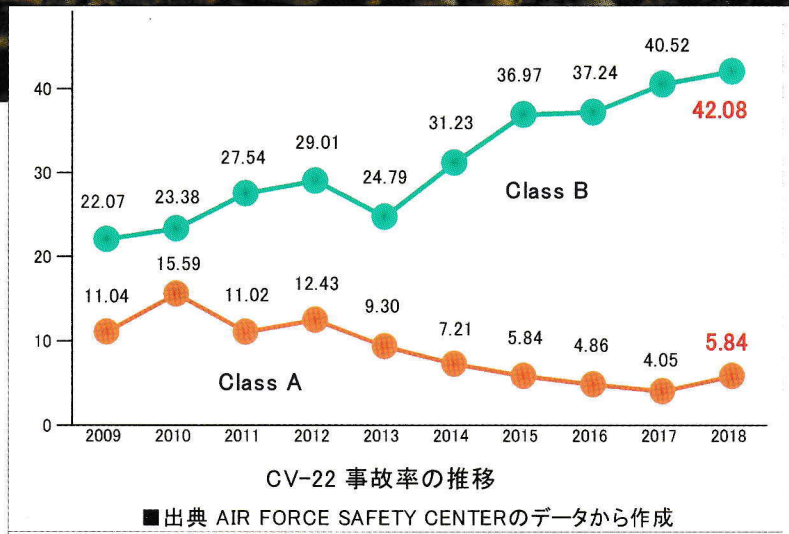


重大事故率が上昇 CV-22オスプレイ

空飛ぶ危険物体

クラスA 5.84

クラスB 42.08



昨年12月、米空軍安全センターは2018会計年度(2017/10~2018/09)の飛行事故履歴統計を公表しました。横田基地にも配備されているCV-22オスプレイに関しては、2007年の部隊配備以来、「クラスA」(死亡または200万ドル以上の損害)の重大事故が5件発生し事故率(10万飛行時間当たりの事故数)は**5.84**です。さらに「クラスB」(一部永久的な障害が残る場合または50万以上~200万ドルの未満の損害)の重大事故は36件発生し、事故率は驚異的に高い**42.08**です。

事故率は航空機の安全性能を測る大切な指標です。オスプレイと同じく横田基地の常駐機であるC-130輸送機の事故率は、この10年間でクラスAは0.8程度、クラスBも1.5程度にすぎません。CV-22オスプレイの事故率で特に注目すべき点は、異常に高いクラスBの事故率で、年々確実に急上昇を続ける傾向があり、これは「重大事故」発生の水面下で「大事故」が多発していることを示しています。CV-22オスプレイの異常に高い事故率の背景には、機体の構造的欠陥に加えて、パイロットの力量不足や整備環境の崩壊、補修部品の欠如など、さまざまなマイナス要因が複雑に重なりあっています。

このような**空飛ぶ「危険複合体」CV-22オスプレイ**が、振動を伴う低周波騒音で静かな夜を切り裂きながら夜間低空飛行を市街地上空で繰り返すことなど、とても許容できる事態ではありません。配備撤回の運動を早急に進めていく必要があります。